

○2 月末、はじめに休園が決定し休みに突入した頃、自分としては落ち着いているつもりでしたが今考えると、動揺し、そしてだんだんとイライラがたまっていったと分かります。そんな中、園長先生から届くメッセージは、毎朝親子で心をリセットし整えて、決まった時間に一日をスタートさせることのできる支えのような存在でした。小三の長女でも、色あつめのおしごとにあんなに目を輝かせて家中を一緒に走り回って取り組む姿には驚きました。しかしそれでも 2 時間もすると家族みんなのストレスによる不穏な空気が家中に充満します。姉妹喧嘩がうるさく、とにかく毎日が長く感じ、学校の課題をダラダラやる長女には腹が立ち…、そして I は何かにつけて「キャー！！」と叫ぶ回数が増えました。

その頃私は、「この休校（休園）期間中、子ども達が学校や幼稚園で過ごしているのと同様になるよう、規則正しい生活が送れるようにし、お手伝いや学習の課題を提供して、さらに、できたら休み期間中にしかできないことにチャレンジさせて…」と、自分に無理なプレッシャーをかけていたように思います。この数年の学びの中で、「親が子どもをコントロールする・やるべきことを提示して誘導するというのは間違っているし、うまくいかない」と知っていたはずなのに、やはり長年の癖や染み付いたしつこい考えが自然と出てきてしまっていました。「母親なんだから〇〇しなければいけない」「子どもはこの期間、〇〇するべき」という、「正しさ」のようなものを自分にも娘にも押し付けて、とても苦しかったです。やはりうまくいくはずなく、園長先生がお手紙でおっしゃっていた「親が決めたことは長続きしない」という言葉にハツとして頷きました。「答えは子どもの中にある」というモンテッソーリの言葉は、こんな非常事態のときにも同じでした。4 月、待ちに待った新学期、我が家は迷うことなく登園させるつもりでいました。そんなとき、「子どもの命が一番大切だから、うちは登園させない」「幼稚園のおしごとは、この緊急事態のもとにおいては不急のものだから…」という考えのご家庭があることを聞き、また動揺した自分がありました。私は我が子の命を軽く考えているということ…？ コロナウイルスを甘く見すぎ？ 慎重な家庭の方々から見たら、喜び勇んで登園させる我が家なんて非常識に映っているんだろうか？ 答えのないいろんなことを考えて悩みました。しかしこのような悩みや、人それぞれの考えや価値観の相違は、コロナが一旦収束したときにもまた出てくることなのだろうと思います。様々な価値観があることをそれぞれが認識して、それを自分と同じだから違うからと「良い」「悪い」とジャッジせず、うまく言えませんが、今回気持ちが揺れてしんどかった自分には、「自分軸」というものが大切なのかもしれないと感じています。

今でも時には、子ども達はストレスで叫んだり急に泣き出したりすることがあります。少し繊細な長女は、夜寝るときになると漠然とした不安から吐き気に襲われることがこれまでに数回ありました。でも 5 月に入り、ステイホームの生活にも慣れ心穏やかに過ごせる日が増えてきたことも確かです。私も子どもをコントロールすることをやめ（やめられていないときもありますが…）、そして無理せずまずは自分をご機嫌にすることを心がけているからかもしれません。24 時間ずっと一緒に過ごして、これまで以上にお互いのことが見え、気づきがたくさん休校期間です。子どもは、ストレスやお友達と会えない寂しさを抱えながらも、この、大きく変わろうとする世界に順応していく力を持って生まれてきているのではないかと思います。特に I は、自由で明るくて強くて、長女からも「羨ましい。I みたいにになりたい」と言われるほど、私達大人も笑顔をもらい尊敬の目で見えしときがあります。地球や宇宙はコロナと関係なくこれまで通り同じように回って、季節は巡って、人間以外のものは変わらず平和で…、（亡くなられた方や医療従事者の方からは怒られてしまうかもしれませんが、）長い歴史で見たら今回のことも必要なことの一つで、そしていろいろな意味で新しい世界に変わるきっかけになるのかなと感じています。

○兄弟がいると、1 人になかなかかまってあげられず、毎日「ママ！ ママ！」と絶え間なく続いて、逃げ出したい日々が続いていました。私は、聖母幼稚園の園長先生の方針や、先生方の優しさに信頼していました。休園になってしまい、自分一人でこの A さんというモンテッソーリの大切な時期を伸ばしてあげないといけない、というプレッシャーを感じていました。でも、一日中子どもたちと一緒に過ごしていると、少し自分の時間がほしくなって、スマホの動画や、テレビを見せました。それがお互いの癖になって、動画を見たい見たいとせがまれ、視聴時間が長くなっていきました。罪悪感から、子どもを必要以上に怒ってしまい、また、その罪悪感に悩まされ、苦しい日々でした。ですが、園だよりを読んで気づかされました。今、私にできることは「命を守ること」なんだと。毎日寝る前に、「今日も命を守ることが出来てよかった」と思えるようになりました。それ以来、気持ちが楽になりました。子どもたちと一緒に動画を見て、笑うことができるようになりました。モンテッソーリのお仕事とか、小学校の勉強とか、それは生きていてこそ、ですね。コロナの渦でモンテッソーリのお仕事や、学校の勉強、習い事など、いろんなチャンスを失いました。でも、元気に生きることが、色々な学びの土台になっていることに気付くことができました。子どもたちと長い時間を過ごす時間ができたことをむしろ喜び、どんどん大きくなっていく子どもたちと今の時間をいい思い出にできるよう、のんびりと過ごしていきたいと思っています。そして、幼稚園が再

開された時には、全員が元気に集まれることを心から祈っています。

(園長より)

今日のお母様方は、この期間、もちろん一生懸命子どもたちと関わり、向きあってこられたと思います。でも、結局、自分自身と向き合うことになり、新しい気付き、新しい考え方、そして、きっと新しい生き方にたどり着いていかれるように思います。子どもがいる私たちは、子育てを必死でしていくうちに、知らないうちに新しい自分になっているのですね。きっと。神さまが私たちにこの子どもたちを送ってくださった意味があるのでしょう。この子どもたちに会わせていただいたことを神さまに感謝したいですね。そして、こんな時間がなかったら・・・気づくことがなかった事柄や深く考えなかったことも、“今”なのかもしれませんね。